

町村名	浪江町
町村立学校名	浪江町立浪江にじいろこども園 浪江町立なみえ創成小学校、浪江町立なみえ創成中学校
就学園児・ 児童生徒数	こども園 5 2 名・小学校 4 8 名・中学校 2 4 名
現状と課題	
<p><b>1 新たなふるさと“なみえ”への思いの醸成（震災記憶の伝承）</b></p> <p>ふるさと創造学の学びの充実「“これまで”の理解」・「“今”の分析」・「“これから”への発信」を通して、将来の浪江町（福島）を支える有為な人材の育成に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材や素材、環境を活用した教育の推進（企業・施設等訪問、郷土料理実習、職場体験学習、大堀相馬焼の実習）及び F-REI との連携強化による教育活動の展開。</li> <li>・新しい価値観を踏まえた教育（ゼロカーボンシティ・水素タウン構想・スマートモビリティ等）を通じた学びにより、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現を目指す教育(SDGs)の推進。</li> <li>・子ども議会（R5 より再開）を通して、社会を生き抜く力や具体的な地域の課題解決に主体的に取り組もうとする力を身に付ける主権者教育の推進。</li> <li>・震災遺構浪江町立請戸小学校の整備と活用による防災教育の推進</li> </ul> <p><b>2 様々な配慮を要する児童生徒の転入への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織的な資質向上による、少人数教育や特別支援教育の向上</li> <li>・一人一人の個性に対応した指導～主体的な学びへ</li> <li>・1 人 1 台タブレット端末の整備 ・小学校・中学校間の相互指導</li> <li>・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の連携による対応</li> <li>・小中特別支援学級（知的・情緒）の設置（R6 中情緒）・学習支援員（町採用）の配置</li> </ul> <p><b>3 極少人数の環境下での社会性・コミュニケーション力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数学年・校種合同による教育活動の展開 ・架け橋教育（保幼小連携）</li> <li>・哲学対話の実施。各教科の単元構想に位置づけ ・保幼小連携、小中連携による活動</li> </ul> <p>○様々な団体や学校等との多様な交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティア団体との連携（含・放課後児童クラブ、週末こどもチャレンジ）</li> <li>・大学生とのコラボレーション ・ICT 機器活用による複数校との遠隔合同授業の実施</li> <li>・他の学校への訪問交流、授業参加 ・英語体験学習（Tokyo Global Gateway）</li> </ul> <p><b>4 子育て家庭の不安感の解消、教育力向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こども園「子育てサロン」の定期的な開催・子育て相談 ・保護者間の情報交換</li> </ul> <p><b>5 園児増加に伴う保育環境の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の整備と職員配置（看護技師の配置）</li> </ul>	

町村名	葛尾村教育委員会
町村立学校名	葛尾幼稚園、葛尾小学校、葛尾中学校
就学園児・ 児童生徒数	幼稚園 8 名、小学校 16 名、中学校 4 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"><li>葛尾村の現状</li><li>学校の状況</li><li>葛尾小学校創立 150 周年</li></ul>	

町村名	双葉町
町村立学校名	ふたば幼稚園 双葉北小学校・双葉南小学校 双葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	幼 1 小 21 中 17
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"><li>• H26.4 いわき市錦町作鞍で学校再開</li><li>• H26.8 いわき市錦町御宝殿の仮設校舎に移転（今年で11年目）</li><li>• R4.8 特定復興再生拠点区域の避難指示解除、役場機能が戻る</li><li>• R5.5 学校設置検討委員会設置</li><li>• R6.3 教育基本構想策定</li><li>• R6.4 幼小中就学者数 405 名（県内 287, 県外 118）</li><li>• R6.6 学校設置検討委員会開催（教育基本計画策定に向けて）</li></ul>	

町村名	大熊町
町村立学校名	認定こども園 義務教育学校 学び舎ゆめの森
就学園児・ 児童生徒数	認定こども園 22 名 義務教育学校 34 名 合計 56 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• F-REIやイノベ機構と連携し、地域の未来を担う人材を育成するための魅力的な教育活動の持続可能な展開 →双葉郡教育復興ビジョンの継続・進化により、地域における教育力の充実・発展</li> <li>• 帰還者・移住者の定住促進につなげるために、魅力的な教育活動の発信 →グリーン留学による体験入学の開催 →お試し住宅による居住体験</li> <li>• 新たなコミュニティの創生と地域で学校を支える仕組み作りと社会教育事業の充実 →地域学校協働本部事業による地域と学校が一体となった魅力的な学びの充実 →コミュニティスクール体制への環境整備</li> </ul>	

町村名	富岡町
町村立学校名	にこにここども園 富岡小学校 富岡中学校
就学園児・ 児童生徒数	こども園 63 名 小学校 61 名 中学校 20 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"><li>園児・児童・生徒数は増加傾向にある。(教育費無償)</li><li>地域学校協働本部の積極的活動により、学校と地域の協働活動場面が増えている。</li><li>特色ある教育活動 (PinS プロジェクト、EIP9 プロジェクト等) の継続推進。</li><li>町内各施設 (アーカイブ・ミュージアム、リプルン、学びの森等) の活用。</li><li>放課後児童クラブの新設により、保護者が安心して働ける環境。</li><li>中学校学習支援 (高校受験対策) と小学校学習支援 (夏季休業中の水泳指導)</li><li>移住家庭の増加に伴う、保護者同士のつながりの場の創出。(初めて生活する富岡町)</li></ul>	

町村名	川内村
町村立学校名	川内村立 川内小中学園
就学園児・ 児童生徒数	かわうち保育園 園児 23名 川内小中学園 前期課程 52名 後期課程 19名 合計94名
現状と課題	
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育学校4年目 敷地内に幼保連携型保育園「かわうち保育園」併設</li> <li>異学年交流、縦割り活動、ランチルームでの合同給食</li> <li>後期課程教員による前期課程への乗り入れ授業実施</li> <li>6・7年生10名「復興子ども教室」8月7日～10日長崎市訪問</li> <li>5年生9名「北の大地交流学校」9月24日～27日北海道士別市訪問</li> <li>川内小中学園内で「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」を合わせた「放課後子ども総合プラン事業」を実施</li> <li>川内小中学園内で村営の学習塾「興学塾」と「ピアノ教室」を実施</li> <li>地域文化伝承教室「コミュニティハウスにじいろ」利用者増加 (R3 1185人、R4 2143人、R5 2388人) ※3つの機能 ①地域文化伝承教室 ②コミュニティースペース ③公民館的機能</li> <li>川内村が各大学と包括連携協定を締結し村の復興、活性化、児童生徒の支援等で貢献 福島大学(平成24年)長崎大学(平成25年)玉川大学(令和5年)</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒数の減少→複式学級であるが加配教員により単式で</li> <li>複雑な家庭環境や支援を要する児童生徒の増加→支援員, SC, SSW</li> <li>今後も継続的な教職員加配措置、SC, SSWの配置</li> </ul>	

町村名	檜葉町
町村立学校名	檜葉町立あおぞら子ども園 檜葉町立檜葉小学校 檜葉町立檜葉中学校
就学園児・ 児童生徒数	檜葉町立あおぞら子ども園 122 名 檜葉町立檜葉小学校 154 名 檜葉町立檜葉中学校 65 名
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5 月末で、住民基本台帳人口 6,477 人で、町内で居住する方は 4,433 人、約 68% の状況にある。復興に関するハード事業はほぼ終了し、現在はソフト事業に政策をシフトチェンジしている。</li> <li>・ 町の政策は「魅力ある教育」「農業の再生」「スポーツの振興」を大きな柱として進めています。中でも「魅力ある教育」は、子育て世代の移住・定住にもつながる重要な政策と捉えている。</li> <li>・ その教育の柱が、今後の予測が困難な未来を生き抜くための「生きる力」を身に着けることとしており、そのために必要な体験活動の一つとして、小学校内で令和 4 年に開設した地域学校協働センターで、主に小学生のためのアフタースクール活動に取り組んでいる。</li> <li>・ 中学校では震災以降静岡で活動していた JFA アカデミー福島女子が今年戻り、震災前の教育環境が戻った。</li> <li>・ 東京オリパラのホストタウンになった縁から、昨年よりギリシャとの交流事業が始まり、今年度は小学生がオンラインでオリンピックの子どもたちと今月、交流を始める予定で、秋以降、小中学生がギリシャを訪問し、対面交流を行う計画をしている。この交流により、海外を身近に感じ、海外の文化に触れることで国際感覚が身につくことを期待している。</li> <li>・ 檜葉町は、幼少中連携して児童・生徒の発達に即した、一貫した見通しのある教育を軸としていますが、中でも幼児教育は土台の部分であることから、今年度から県内大学の先生を幼児教育アドバイザーとして、指導を受けている。園児の増加により、若い保育士の先生も増えてまいりましたので、アドバイザーから直接指導を受けたりすることで、個々のスキルアップや園の運営全体でも、良い方向に向かっている状況です。</li> </ul>	

町村名	広野町
町村立学校名	広野こども園、広野小学校、広野中学校
就学園児・ 児童生徒数	3 6 2 広野こども園 9 6、広野小学校 1 4 1、広野中学校 1 2 5
現状と課題	
<ul style="list-style-type: none"><li>• 異校種間で連携し、指導の一貫性を保持した普通教育の推進</li><li>• 学校図書館の充実と読書活動の推進</li><li>• グローバル人材育成の推進（広野中学校グローバルデイ、広野小中学校ブリティッシュヒルズ異文化交流体験活動）</li><li>• 広野町教育環境の整備（広野町教育環境ランドデザイン）</li><li>• 特別な支援を必要とする児童生徒数の増加と児童・生徒・保護者・教員への支援</li><li>• ふるさと創造学の充実と成果の外部発信の準備</li><li>• 広野町立学校運営協議会の活動の推進</li></ul>	